

◇社会福祉学科 主要科目の特長

科目	特長
医学概論	医療は現在、多くの問題に直面している。それらを各論として捉えるのではなく、「医療とは何か」「健康とは何か」という原点に振り返る必要がある。ただし、医学の各論的知識なく総論を学ぶことは困難である。各回の授業では、疾患を取り上げるが、この知識を土台として自分たちの将来の「健康」をどう捉えたらよいか、その役割と目的を考える。
心理学と心理的支援	社会福祉領域で実践を行うためには、人間理解が欠かせない。本講義では教養科目「心理学」の基礎部分を確認しつつ、社会環境の中で生じる心の変化を学ぶ。特に、「対人交流」、「発達」、「ストレス」、「心理療法と見立て」に関する内容について中心的に解説する。
社会学と社会システム	ソーシャルワークの基本となる「人・社会・生活と福祉の理解」のため、社会理論と社会システムについて学習する。現代社会における個人と社会の関係、社会的現実・実態を社会学的に理解することをめざす。具体的内容として、(1)現代社会の理解、(2)生活の理解、(3)人と社会の関係、(4)社会問題の理解等を取り上げる。
基礎ゼミナールI	大学の授業を受けるための基礎的学修スキルを身につけ、4年間の見通しをもって専門教育への準備ができるようになることをめざす。また、社会福祉を学ぶ土台作りとして、基本的専門用語の意味を理解する。グループワークや発表等により、学生相互に交流をはかりながら、個々人が能力を開発し発揮することを目標とする。
基礎ゼミナールII	「基礎ゼミナールI」に続き、基礎的学修スキルの習得を行う。特にレポートや発表などを中心として、表現力とコミュニケーション力を養成する。また、社会福祉の諸分野について関心を高め、幅広く学ぶことにより、社会福祉学を学ぶために必要な価値・知識および汎用的能力を養う。
社会福祉の原理と政策 I	本講義では福祉国家の理念、理論、形成過程、およびその構造や機能についての理解を深め、社会福祉の直面するさまざまな問題を、資料、データなどに基づいて、受講生が正確かつ総合的な視点から考察できるよう計画されている。またDVDなどの視覚教材、新聞などからの最新の事例などを適宜用い、受講生の知的好奇心を涵養することも併せて目的としている。
社会福祉の原理と政策 II	本講義では福祉国家の理念、理論、形成過程、およびその構造や機能についての理解を深め、社会福祉の直面するさまざまな問題を、資料、データなどに基づいて、受講生が正確かつ総合的な視点から考察できるよう計画されている。またVHS、DVDなどの視覚教材、新聞などからの最新の事例などを適宜用い、受講生の知的好奇心を涵養することも併せて目的としている。
ソーシャルワーク実習指導I	実習先となる、高齢者施設、障害者支援施設、児童養護施設、医療機関、社会福祉協議会等地域福祉関連施設における利用者やそこでの支援内容、さらに社会福祉士の役割について施設見学等により理解します。そして相談援助実習に必要な利用者理解のため、利用者とのコミュニケーションの方法や介護技術の基礎を学びます。また後半では今後の実習に向けての実習計画書や日誌の作成について学びます。
ソーシャルワークの基盤と専門職	社会福祉の実践方法であるソーシャルワーク実践に不可欠な価値、態度、基本理念を理解することが本講義の目的である。ソーシャルワーク援助の原点、現在までの発展過程を学び、そこから相談援助に不可欠な専門職としての価値、実践原理、利用者の人権擁護について学ぶ。
ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	相談援助の具体的な方法、それに当たる専門職の力量、相談援助を有効化していくために解決していかなければならない問題点について、講義をベースに学ぶ。実践現場で生きる学びとなるよう、各自が問題意識を持って課題に取り組み、研究を進める学修プログラムとなっている。
専門基礎ゼミナールI	基礎ゼミナールで身につけたスタディ・スキルを土台として、専門的な知識を身につける演習および、意図的・目的的に、当事者と関わる実体験、地方自治体との共同事業などPBL型授業を通して、社会福祉支援を必要としている利用者理解を深める。社会福祉専門職として必要な専門科目群の学修と並行して、それら個々の科目を統合的、総体的に理解し直し、学生が職業的社会的に進めることができるよう、社会福祉士の実践的理解を深める。
専門基礎ゼミナールII	基礎ゼミナールで身につけたスタディ・スキルを土台として、専門的な知識を身につける演習および、意図的・目的的に、当事者と関わる実体験、地方自治体との共同事業などPBL型授業を通して、社会福祉支援を必要としている利用者理解を深める。社会福祉専門職として必要な専門科目群の学修と並行して、それら個々の科目を統合的、総体的に理解し直し、学生が職業的社会的に進めることができるよう、社会福祉士の実践的理解を深める。
社会保障論I	社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程も含めて学ぶことにより、制度の体系と概要について理解する。さらに、社会保障の財源と費用、社会保障制度の動向、医療保障、介護保険制度の内容、現状、将来展望について学ぶ。
社会保障論II	社会保障を構成する所得保証制度について理解する。また、少子高齢化や生活の都市化・核家族化、所得格差の拡大、福祉サービス供給や財源調達・管理運営等について学ぶ。さらに、現代社会における社会保障制度の諸課題について考察を行う。
地域福祉と包括的支援体制 I	”地域共生社会”の実現を図ろうとするなか、地域におけるソーシャルワーク、コミュニティワークの重要性が高まっている。その実践には当事者・住民の主体性の支援、地域にある様々な資源(人や制度、施設)とのつながりを当事者の自立支援に結びつけていくことが必要となる。授業では、地域福祉におけるソーシャルワーク、コミュニティワークの定義を示し、地域福祉実践の理論と方法、地域社会における福祉専門職の役割等を開設し、今日の地域福祉の諸課題について考察する。
ソーシャルワークの理論と方法	対人援助のあり方について、面接の進め方、専門職としての価値、態度の再確認、それらを実践に移していくことができる援助技術の展開の仕方について、講義と事例から学びを進める。具体的には、実習において、利用者の抱える問題や課題を利用者や家族の話の中から、また記録の中からまとめ出すことができ、具体的な支援計画を作成できることが重要である。また、利用者との話をどのように展開していくのか流れを形成する能力を身につけることをめざす。
ソーシャルワーク実習指導 I	社会福祉を学ぶには、福祉の現場(機関・施設や従事者等)について知る必要がある。本授業は、講義科目で学修した社会福祉の諸理論と現場実習をつなぐことを目的とする法定実習である。特長として、社会福祉施設・機関で12日間実習する「ソーシャルワーク実習II」と連動しており、この実習体験により、社会福祉現場の業務や援助実践、就労姿勢等と事前学習・事後学習を本科目を通じて学び、経験知とする。また、本授業は、ソーシャルワーク実習IIIの事前学習ともなっている。実習先に応じた目標設定、実習日誌の作成、実習後の課題整理・レポート作成・ふり返りなどを個別学習とグループ学習(相互討議)によって行う。